

- iii 爐床傾斜と爐内壓
- iv バーナーの型式
- v 爐床負荷
- vi 爐内ガス速度
- vii 燃焼ガスの性状
- viii 爐内材料の温度分布

等の事項を比較検討して今後の改善に資する事としてい
る。

(4) 製管用ロール

縦目無熱間仕上用ロール及び熔接鋼管用の冷間成形ロ
ールについて検討した。上表の通りである。

V. 壓延理論分科會

主査	遠藤勝次郎君	
委員	吉田清三郎君	山下 伸六君
	池島 俊男君	河合 正吉君
	井上 勝郎君	西村吉太郎君

研究委員會開催月日及場所

第1回	24年2月9日	日本特殊鋼管(戸田)
第2回	" 5 11	} 日鐵, 八幡製鐵所
	" " 12	
第3回	" 6 21	新扶桑金屬(尼崎)
	" " 22	" (大阪)
第4回	" 9 12	日本鋼管(川崎)

當分科會の課題として、先づロールカリバーに関する
問題を取上げることとしたが、この理論的考察について
は

- i 鋼の粘性及び塑性に関する特性
- ii 鋼材の壓延加工に関する基本的理論の研究
- iii 變形速度の壓延應力に及ぼす影響の研究
- iv ロールと壓延鋼材との磨擦係數に関する研究
- v 鋼材壓延の際の横擴り及び先行現象の研究

等が必要である。然しこれらの根本の解決は非常に困難
で長年月を要するので、研究結果が直ちに作業に利用さ
れる様に現場測定を元とし、實驗の手始めとして

- i 鋼材壓延の際の横擴り及び先行現象の研究
- ii ロールと壓延材との磨擦係數の測定

から着手することとした。而して従來の研究發表により
次の諸問題に関する調査検討を行つた。

- i 測定器
- ii 壓延に要するエネルギーについて
- iii 變形抵抗
- iv 壓延に於ける磨擦に関するもの
- v 壓延に於ける幅擴りに関するもの
- vi 粘性塑性變形に関するもの

以上の通り鋼材部會は5つの分科會に分れて活動中で
今後も主として生産技術の現場の問題を捉えて研究を進
めていく豫定である。(昭. 24. 12 月寄稿)

會 告 (II)

(1) 日本鐵鋼協會員調査票(往復ハガキ刷)を4月17日に全會員宛發送いたしました。未だ御送
付ない方は至急御出し下さい。該票は學術會議會員推薦の爲めにも又本會會員名簿作製の上にも是非必
要ですから各記入欄の記事は漏れなく丁寧に御記入の上大至急お願いいたします。

(2) 又會員の方で本ハガキ受取りにならない方が若しお在りでしたら直ぐ當協會へ御問合せ下さい。